

「今、思うこと」

富山市立東部中学校 二年 川島 和

2020年、この年は私にとって「かがやける一年」になるはずでした。ドキドキとワクワク感をもって、この新しい2020年をスタートさせました。

毎年、元旦に書く今年の一文は「希」にしました。希望の希です。理由は、3月には空手の全国大会出場が決まっていた。6月には東京オリンピックの聖火ランナーとして、富山県を走ることになっていました。もう走る区間も決まっていた。その他にも、中学2年生のこの一年間でやってみたいことがたくさんありました。生徒会にも立候補してみたかったし、14歳の挑戦の職業体験や、新しいクラスの友達とのおしゃべりなど楽しい中学2年生を過ごすはずでした。

しかし、新型コロナウイルスが蔓延したため、私の「かがやける一年」は一瞬で何もかも中止や延期になりました。学校も休校になり、空手の練習もなくなり、毎日していた私の日常が何も無くなりました。誰もが「あなただけじゃない。みんな一緒なんだから」と励ましてくれましたが、前の年に努力してきたことが、白紙になってたかと思うと、とてもショックで泣いたり、落ち込んだりして、毎日をたんたんと過ごしていました。

ある日、ニュースで世界では新型コロナウイルスに感染して、多くの人々が亡くなっていることを知りました。あまりの多くの死者が出ているため、お墓もたりなくなり、その辺にある空

き地に穴を掘って、死者を埋葬している場面を映像で見た時、私はやつと気付く事ができました。何よりも「まずは生きること」が一番大切なんだと。生きてさえいれば、どんなことにもチャレンジできるし、もし、失敗しても、また、再チャレンジできる。生きている。イコール 時間があると言うことなんだと気づきました。

私の思っていることや考え方が、余りにも幼稚だったことに、少しの恥ずかしさを感じました。それとともに、自分中心の考え方をしている、世の中、社会、世界など自分以外のことに目を向けようとしてもしていなかったんだと、反省しました。

私が思うことは、これからの時代は、新型コロナウイルスとの共存を考えながら、すべての生活をしていかなければならないと思います。

「マスク着用」は自宅以外、一人にならない限りマスクの着用は、当たり前になり、「手洗いうがい」は、しましうではなく、絶対にして下さいになり、「検温や消毒」やソーシャルスタンスで人との距離をとることも、義務になると思います。もしかすると、近い未来には法律ができるかもしれません。試合に勝った時ハグし合ったり、負けた時、ポンポンと頭や肩を軽く叩いてくれて、なぐさめてもらうという光景が無くなってしまふのは、さみしいです。

私も春の頃には、マスクをするのも、検温や消毒をするのも正直、面倒だなと思っていましたが、よく考えてみると自分を守るにはこれらの対策は、とても重要なことで、とても効果が

あることなんだと分かり頑張ろうと思えました。また、この対策をすることで、自分を守るだけでなく、家族や友達など私の身近にいる人達も守ることにつながると気づきました。

ですが、社会全体、地域全体で、この対策に取り組んでいかないと、新型コロナウイルスに感染する人が減少することは無いような気がします。

私たち若い人が、特に気を付けるべきだと思います。そうすることで、年配の人たちに知らずに感染させて重症化させることを防げると思います。私にも一緒にくらししている祖父と祖母がいるので特に気を付けて、マスク着用、手洗い、うがい、消毒、ソーシャルディスタンスをたもつを徹底していきたいです。

きつともう少ししたらこれが「当たり前」の世の中になり、私たちも違和感をもつこともなく、普通の生活に取り入れていると想像します。

これが、コロナ時代を生きる「私たちの今を生きる」になっているはずです。

最後に私が「今、思うことは」は、新型コロナウイルスが流行する前と後、少し前の私たちの日常と、今、現在の私たちの日常とでは、学校生活の変化や、空手の練習の変化、気軽に外食に行けないなど、多くの変化があります。それもきつといつかは、思い出に変わっていくはず。一生に一度あるかなにかの、この体験を、今を知らない未来の人々に伝えていくのも、私たち若い世代の務めだと思えます。そして、前を向き元気に明るく、今できることをしていきたいとも思います。

「まずは生きること」これを忘れずに生きていきたいです。

延期になった2020年東京オリンピックが、来年2021年に開催され、富山を聖火ランナーとして走ることができそうですように・・・祈っています。

また、新型コロナウイルスで亡くなられた方の、ご冥福をお祈りします。